

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標	
学校教育目標：「自ら学び ひとつつながり しなやかに未来を拓く人」	
知：向上心を持ち、主体的に考え学び続ける人 徳：自他ともに大切にし、真心と思いやりのある人 体：自ら健康・体力づくりに努め、心身ともにたくましく生きる人 公：元気なあいさつを通し、地域や社会とともに歩む人 開：多様性を尊重し、広い視野をもって未来へ進む人	

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	
具体化した資質・能力	
○自己肯定感 ○コミュニケーション能力 ○向上心をもって、挑戦、探求する力	→自分のよさや強みを理解する力（セルフアナライズ） →自分の考えや意思を他者に伝えられる力（アウトプット） →失敗を恐れることなく自己実現に向かって行動する力（チャレンジ）

中期取組目標	
学校スローガン：「あ(挨拶)・せ(清掃)・か(感謝)・け(けじめ)」	
学校スローガン「あ・せ・か・け」を生活規律と学習規律に据え、生徒と教職員が共に汗をかきながら、子どもが主役の学校づくりを進めます。公立の中学校として、3つの力（①自分にふさわしい進路選択ができる学力。②豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション力。③発達に応じて心身の健康を自分でコントロールできる力。）を子どもたちに身に付けさせます。変化が激しいことが予想されるこれからの社会を「しなやかに」「したたかに」生き抜いていける子どもたちを育成したいと考えています。	

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
確かな学力	①資質・能力や見方・考え方を育成します。基礎・基本を基盤に、主体的な学び・対話的な学び・深い学びを取り入れた授業を展開します。②学び合いを通して問題を発見し、身に付けた知識や技能を活用し、思考力・判断力・表現力等をはたらかせて解決していく力を育みます。
担当	学習指導部

学力向上に関わる本校の状況	
<p>令和3年度</p> <p>本年度実施した「横浜市学力・学習状況予備調査」では、1年生は平均を若干上回るが上回り、2年生はほとんど平均という結果であった。（3年生は「全国学力・学習状況調査」のみ実施）しかし、学習意識は1年生は平均を下回り、2学年は平均を上回っている。このことから、1年生については基本的な生活習慣の確立することで、さらなる学力向上が期待できると考えている。2年生については、アクティブラーニングや言語活動を重視した身に付ける授業を行うことで、学力の向上が図れると考えている。</p>	

今年度の目標	
「身に付ける授業」を工夫・実践し、生徒の充実感・達成感を高め、主体的に考え、意欲的に学び続ける生徒を育成を目指す。	

目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	「授業はわかりやすいですか」の問いに対しては、市の平均を上回る値であった。その一方、「授業で自分の考えを発言しているか」の問いに対しては、市の平均を大きく下回っている。基礎・基本を大切にしつつ、何が身に付いたかを重視した、資質・能力ベースの授業を展開する。具体的には、講義形式の授業ではなく、生徒の自主性や主体性を重視した、アクティブラーニングを取り入れた授業を目指す。 また、「1日の読書の時間」の問いに対しては、市の平均を大きく下回っている。残念なことに、全く読書をしない生徒も多々いる。具体的には、学校司書と連携しながら、学校図書館の充実を図る。さらに、全ての教科で言語活動を充実させ、読書に対する興味・関心を引き出す。読書の習慣化を目指す。
下半期	

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①学校スローガン「あ(挨拶)せ(清掃)か(感謝)け(けじめ)」を生活規律とし、安全で調和のとれた学校生活を送れる生徒を育成します。②自他ともかけがえのない存在であることを理解し、互いの存在を認め合うことで、自尊感情（自己有用感・自己肯定感）を育みます。
担当	道徳指導係

豊かな心に関わる本校の状況	
<p>令和3年度</p> <p>本校の喫緊の課題に、自尊感情（自己有用感や自己肯定感）の低さがあげられる。教職員の働きかけもあり、「学習意識」や「生活意識」は上昇傾向にあり、不登校生徒も大きく減少することができた。ただ、新型コロナウイルスによる休校や自粛が、生徒に与える影響もあり、引き続き寄り添った対応を心がけていきたい。 また、「決まりを守る」の問いに対しては、市の平均より高く、「あいさつを自分からしている」の問いに対しては、市の平均を大きく上回っている。このことから、本校生徒の規範意識が高いことがわかる。</p>	

今年度の目標	
人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性の涵養を目指す。	

目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	「あ(挨拶)・せ(清掃)・か(感謝)・け(けじめ)」を学校スローガンにすえて2年間活動してきた。その結果、生徒による自己評価も高く、定着しつつあると感じている。生活規律を確立することで、生徒は安心して安全な学校生活を送れことを年度初めに全校（生徒と教職員）で再確認する。具体的には、引き続き「あせかけ」を推進し、当たり前前が当たり前前ができる生徒の育成を目指す。 また、道徳の授業を中心にすべての学校教育活動を活用して、自他ともかけがえのない存在であることを理解させる。具体的には、一人ひとりの違いを認め合える人間関係を構築し、自尊感情を高めることを目指す。
下半期	

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①「体力向上1校1実践運動」として、保健体育科の授業開始時にランニング等の基礎体力づくりを実施し、心身ともにたくましい生徒を育成します。②保健教育や学校保健委員会等を通して、自らの健康を保持増進しようとする態度を育みます。③引き続き、感染症対策に取り組みます。
担当	保健体育科・養護教諭

健やかな体に関わる本校の状況	
<p>【体育・健康に関する実態】 身長、体重の体格は、全国平均並みである。BMI指数は、全体の約94%は普通～ややせの傾向を示し、肥満傾向のある生徒は少ない。朝食を毎日食べている生徒は全体の約88%を示し、全国平均の約82%を上回っている。睡眠時間は6時間以上の生徒が約93%で全国平均の約83%より大きく上回っている。 【体力の概要と要因の分析】 ほとんどの項目で全国平均を下回る。男女ともに反復横とびは著しく下回る。昨年度課題であった長座体前屈（柔軟性）は、ほぼ全国平均まで回復した。このことからコロナ禍において運動機会が全体的に減少し、体力や筋力が低下していることが予想される。体育や保健の授業を通して、健康であるために体を動かすことの意義や楽しさを示していく必要がある。</p>	

今年度の目標	
子どもの体育と健康面の姿から課題を明確にし、保健体育科の授業を核としながら、教育活動全体を通して健やかな体の育成を目指す。	

目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	○保健体育科：「体力向上1校1実践運動」授業最初に行うランニング等の補強運動やウォーミングアップを行う。しっかり教え、しっかり引き出す指導を行うことにより生涯にわたって運動に親しむ能力を育てるとともに、健康の保持増進の育成と体力の向上を図る。 ○家庭科：生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得、食育をはじめ、進んで日常生活を工夫し想像する能力と実践的な態度を育てる。 ○理科：自然の事物・現象に進んで関わり、それについての理解を深め、科学的な見方や考え方を養い、健康の保持増進の態度を育てる。 ○体育祭：体育の授業で培った資質能力を軸に実践できる種目を行う。また個人種目だけではなく、集団で協力する中で、豊かな人間関係を構築できるような団体種目も設定する。 ○薬物乱用防止教室において関係機関と連携した取り組みを行う。 ○学校保健委員会において、健康の保持増進に関する取り組みの推進。
下半期	